

令和 3年度予算見積調書

課室名：土地水政策課
 担当名：見沼田圃・三富地域担当
 内線：2192 (単位：千円)

番号	事業名		会計	款	項	目	説明事業	
B36	見沼田圃保全・活用・創造事業推進費		一般会計	総務費	企画費	企画調整費	見沼田圃保全・活用・創造事業推進費	
事業期間	平成 8年度～	根拠法令	見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針			宣言項目	SDGsゴール	11, 15
						分野施策	051245 みどりの保全と再生	SDGsターゲット 11-7, 11-a, 15-1
1 事業概要			5 事業説明					
<p>「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」に基づき、広域的な立場から治水機能を保持するため、土地利用に係る施策及び公有地化事業を行うとともに、公有地化した土地の利活用事業を行う。</p> <p>(1) 見沼田圃土地利用関係諸会議開催費 991千円 (2) 見沼田圃公有地化事業費 287,648千円 (3) 見沼田圃県民ふれあい事業費 36,173千円</p> <p>上記事業は県(77.1億円)、さいたま市(34億円)及び川口市(17億円)で積み立てを行った「さいたま環境創造基金」を財源として行っている。 令和2年度末の残高は約91億3,000万円(見込み)である。</p>			<p>(1) 事業内容</p> <p>ア 見沼田圃土地利用関係諸会議開催費 991千円 土地利用等について調整するため、県及び関係2市で構成する「保全・活用・創造のための連携会議」、「土地利用連絡会議」及び学識者等で構成する「土地利用審査会」を運営する。</p> <p>イ 見沼田圃公有地化事業費 287,648千円 基本方針により土地利用が著しく制限される場合等の土地の買取り、借受けを実施する。 見沼田圃周辺の景観の優れた斜面林を保全する。</p> <p>ウ 見沼田圃県民ふれあい事業費 36,173千円 公有地を適切に管理するとともに見沼田圃の保全・活用・創造に資する普及啓発をするための農業体験イベント等を実施する。</p> <p>(イ) NPO等民間団体運営委託 27,173千円 (イ) 公有地整備 8,543千円 (ウ) 新規導入作物実証栽培 457千円</p> <p>(2) 事業計画</p> <p>ア 土地利用規制 見沼田圃の治水機能を維持するため、地元2市とも連携をしつつ、引き続き土地利用規制を行っていく。</p> <p>イ 公有地化推進事業 基本方針により土地利用が著しく制限される場合等に買取り又は借受けによる公有地化を進めていく。 また、見沼田圃周辺斜面林を保全するため、地元市の公有地化を支援する。</p> <p>ウ 県民ふれあい事業 見沼田圃にふれあうイベント等を実施するとともに、農業者等に公有地の貸付けを行う。</p> <p>(3) 事業効果</p> <p>ア 基本方針に定める土地利用申出処理件数(県)(29年度:5件 30年度:4件 元年度:1件) イ 公有地化実績(29年度:0.4ha 30年度:0.1ha 元年度:0.2ha) ウ 公有地貸付けによる事業費削減等(2年度:5.3ha貸付 貸付収入739千円収納、管理費用14,045千円削減 →3年度:6ha貸付 貸付収入833千円収納、管理費用15,900千円削減)</p> <p>(4) 県民・民間活力・職員マンパワーの活用、他団体との連携状況 管理コストの削減、見沼田圃区域内の農業振興及び緑地空間の保全を図るため、公有地を農業者等に貸付ける。</p>					
2 事業主体及び負担区分								
<p>(1)・(2)・(3) (県10/10) (2)斜面林保全のみ (県1/3)市2/3</p>								
3 地方財政措置の状況								
なし								
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員								
9,500千円×3.7人=35,150千円								
予算額		財源内訳					一般財源	前年との対比
		繰入金	諸収入					
決定額	324,812	324,412	400				0 135,767	
前年額	189,045	188,645	400				0	